

2022年11月2日（水）～6日（日） 屋久島宮之浦岳（1936m）登山＆縄文杉探訪

屋久島の天候は徐々に良い方向に向かっていましたが、2日目の3日（木）はまだ雲が多そうでした。話し合いの末、今日は縄文杉を探訪することにしました。

荒川口からトロッコ道を2時間半ほど延々と歩き、トロッコ道が尽きたところから山道に入って縄文杉を訪ねます。長い長い一日になりそうです。

2日目【11月3日木曜日 曇り】縄文杉探訪

3時30分 早い起床、そして長い一日が始まった。

宿の玄関に準備されていた朝食用弁当をピックアップして、4時には宿を出発した。早朝出立客の為に、弁当を準備してくれる専門の業者がいるようだ。

11月とは思えないほどの暖かい朝であった。



4時12分

荒川登山バス案内所に到着

朝一番である5時発のバス乗車券を手に入れて一安心



ベンチで食べた朝食のおにぎり弁当はおいしかった。

14年前は焼いた飛魚がおかずで、パサパサしていてまずかった。

今回はGood！



朝一番の便は満席。次発は5時40分であったが、そちらも満席のようで臨時便を出すような話であった。関東より大分西に位置する屋久島は夜明けが随分遅い。5時は未だ真っ暗である。



5時40分
荒川登山口の休憩室に到着

休憩室の中で出発の準備



ヘッドランプをたよりに、5時55分
出発

小杉谷を経て、「大株歩道入口」まで、
トロッコ道をひたすら歩く。



トロッコ道は約8Km、元々は山中で伐採した木を運ぶために使われていたもの

今も、し尿運搬用に利用されているとのことである。

最初に、岩盤をくりぬいたトンネルを抜けて、あとはひたすら歩く。



40分ほど歩いたところで、小杉谷・石塚集落跡に到着した。

案内板によれば、ここは林業に関わった人たちの集落で、商店や郵便局があり最盛期には100名を超える児童が通う小中学校もあったという。最盛期の昭和35年には133世帯540人が生活していた。



小杉谷・石塚集落の案内板

当時の面影が写真で良く分かる。



集落跡

ここに小中学校もあって、子供たちが駆け回っていた。

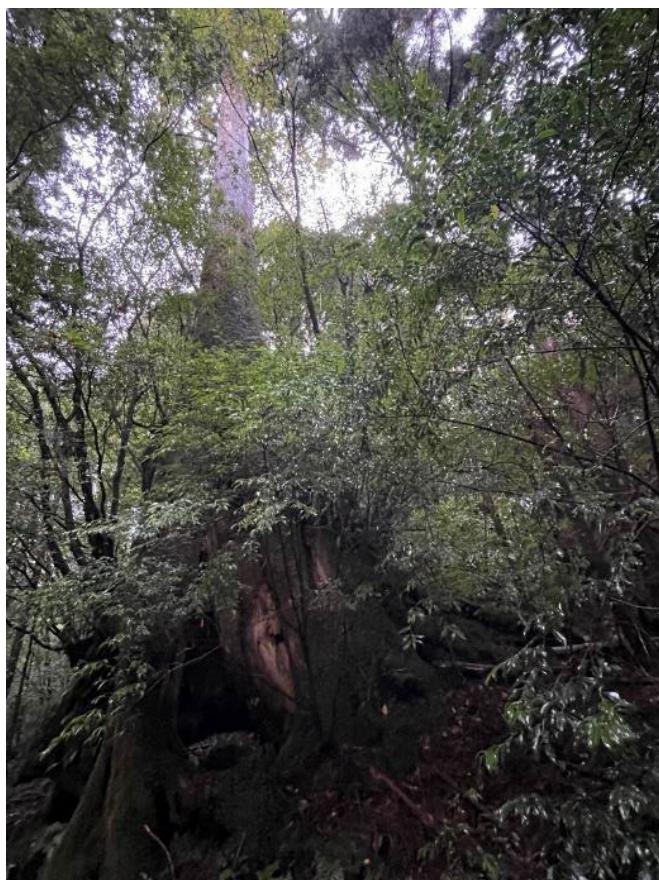


集落跡からすぐの所には、小杉谷事業所跡が残る。

今は登山者の一寸した休憩場所として使われていた。

事業所跡から 40 分ほど歩いたところに「三代杉」が現れた。

一代目の倒木の上に二代目が育ち、二代目の切株の上に三代目が育っている。説明書きには、一代目の樹齢はおよそ 1200 年、二代目が 1000 年、三代目が 350 年と書かれていた。



「三代杉」の雄姿とその説明板



更に 50 分ほど歩いて現れたのは「仁王杉」





そろそろトロッコ道も終点となってきた。

写真は左手に臨むことが出来た「翁岳（1860m）」、その右手奥に宮之浦岳があるらしいが今日は雲で見えない。



8時33分

トロッコ道の終点「大株歩道入口」に到着した。

トロッコ道をひたすら歩くこと2時間半であった。



トロッコ道終点の立派なトイレ

屋久島名物の雨が降り出してきたので、ここで一息入れてレインウェアを着ることにした。

【閑話休題】

我がクマさん会が誇る、玄人はだしの写真家中島さんは、被写体選びが一寸違う。

トロッコ道でのそんな場面と撮った写真を紹介





9時、「大株歩道入口」から縄文杉を目指すことにした。

ここからは本格的な登山道である。



入口からすぐに急登



岩の多い登りもある。



入り口から20分ほどで「翁杉」に
出会う。

かつては、縄文杉に次いで幹部が太い
と言われていたそうだが、2010年
9月に幹折れの為現在の姿のなった
とか・・・。

元の幹回りは12.6mの巨樹
推定樹齢2000年

9時30分、ウイルソン株に着いた。400年ほど前に伐採された切株と言われている。

大正時代に屋久杉を調査して、この大株を広く紹介した英國の植物学者ウイルソン博士に因み、この名となる。

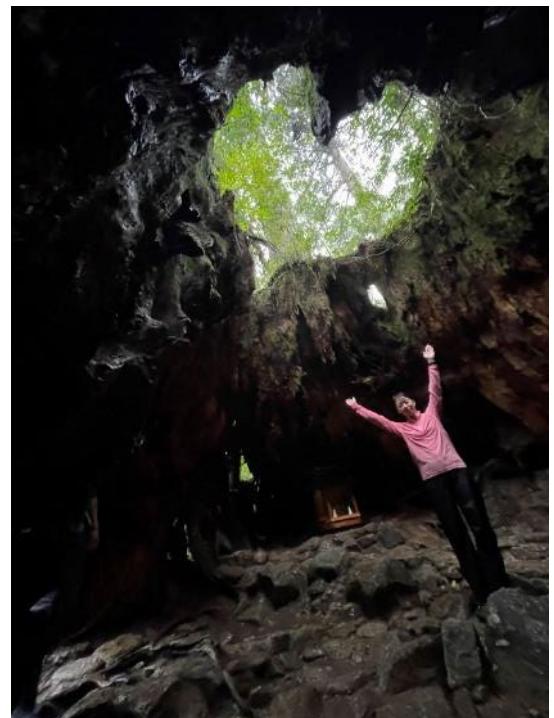
ウィルソン株

幹回りは約14m、大きな洞が空いており中には祠が鎮座している。



洞の中から見上げると、空がハート形に広がって見える。ハートを背景に写真に納まった。

*中島さんが映る写真は吉松がシャッターを切った。撮った写真のハート形があまりにもひどいので中島さんが残念がり、下山時に再び撮り直した。今度は吉松の渾身の集中力が奏功し、バツチリ、ご本人も納得か？



ウィルソン株を過ぎると暫く急登が続いた。

階段が整備されていて歩きやすいのだが、次々に階段が現れて、しかも段数もあるのでかなりきつい。中島さんだけは元気、一寸雄さんは大変そうだ。





雄さんのスピードが大分落ちてきた。

=雄さんの独り言=

- ・上り坂での布目さんのつらさが良く分かる！
- ・心臓がバクバクしてきた！
- ・初回のコロナワクチンを受けた時的心臓・バクバク状態と同じだ！
- ・恐らくこれは、コロナワクチンの後遺症だ！



10時15分

心臓バクバク状態が治まらず、雄さんはついに大休止を要求

休憩後にゆっくりと登ってくるか、中島・吉松2人の下りを待つか、雄さんの判断に任せることにした。

雄さんは、昨日のヤクスギランド散策でも“心臓バクバク”的ことを口にしていたそうだ。

「本当にコロナワクチン後遺症でなものはあるのだろうか？」などと話をしながら、中島・吉松2人組は歩き始めた。

今回の登山行では、屋久島の紅葉にも興味があった。

高度が上がるにつれて所々で紅葉した樹木を目にした。黄色く染まった黄葉が多かった。



* ウィルソン株の後には「大王株」が現れるはずだが、我々は2人は見落としたかもしれない。

縄文杉が知られるまでは屋久島最大の屋久杉と言われていて、「大王」の名前が付いたそうだ。

樹齢3000年



10時50分

「夫婦杉 (みょうとすぎ)」

2本の杉が仲良く枝で繋がっている。

こんな“くぐり杉”を超えて・・・



11時25分、中島・吉松組は「縄文杉」の展望デッキに到着



保護の為に、展望デッキは縄文杉から7, 8m離れたところに組まれていた。

樹齢は2000年から7000年まで諸説あるとのこと

【ちょっと説明】

中島・吉松組は展望台デッキで暫く休憩して下山を始めたら、あとから登ってきた雄さんに行き会った。

雄さんは息も整い、元気になった。11時55分、再び3人で展望デッキに戻って写真タイムを楽しんだ。



雄さんが元気を取り戻したお陰で、3人一緒に縄文杉探訪ができた。

12時には名残を惜しみながら縄文杉を後にした。

このころには雨も止んでいて、歩きやすくなっていた。



12時18分

木道の隅で昼食



12時55分

登りで見落としていた「大王杉」にも
出会えた。



登りでは大変だった急な階段も順調
に下った。

雄さんはすっかり元気になった。



14時22分

大株歩道入口に戻った。
ここからは、もと来たトロッコ道を荒
川口に向けて、とにかく歩く。



16時30分 荒川口に到着
2時間、トロッコ道を歩き通した。

行きは張り切って歩いたが、その帰り
は単調さにいささか飽きが来た。

雄さんが、「トロッコ道の往復歩きが
閑門だ」と言っていた意味が良く分か
った。

荒川登山バス案内所に戻る臨時バスが、うまいこと荒川口前で待っていた。
気配りの良い職員が、我々3人を呼び込んでくれてからバスは出発した。



17時5分

レンタカーを駐車している荒川登山
バス案内所に戻った。



レンタカーに乗り換えて、尾之間温泉に向かった。今日は宿の風呂では無く、温泉で汗を流すことにしていた。

尾之間温泉には、覚えがある。

14年前にクマさん会で屋久島に来た時、無残にもぎっくり腰になった吉松と、縄文杉訪問をあきらめた小野寺さんが、あまりの手持無沙汰で「温泉にでも入ろうか」とトコトコ歩いて入りに来た温泉だ。
熱かったことと、湯船の底に玉砂利が敷き詰められていたことだけは妙に記憶にあった。



尾之間温泉

地元の人も利用する庶民的な温泉だ。

入浴料 300円也

湯はすこぶる良い、

難点は極めて熱く長湯は無理か？



熱くて長くは入っておれず、早々と温泉を後にして民宿に戻った。

宿では、早速買い置きの缶ビールでのどを潤した。



今日も豪勢な夕食が食卓に

並んでいた。

ちなみに、民宿「杉の里」は1泊2食で700円である。

約10時間、良く歩きました。

名物の雨に降られはしましたが、それも短時間のことで、十分楽しむことのできた一日でした。

歩数計は37700歩を示していました。今日も焼酎を飲んでバタンキュウでした。